

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人社団中山会新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム夏桜		
所在地	北海道札幌市厚別区青葉町16丁目728-12 (電話) 011-892-4111		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月19日	評価確定日	平成20年11月7日

【情報提供票より】 (平成20年9月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 17年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 14.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,300~22,300 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	610 円
	夕食	480 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,470 円	

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌パウロ病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅街に立地する当事業所は、開設から3年が経過している。介護保険事業所、グループホームを複数運営する歴史ある当法人は、高齢者介護に対して積極的に取り組んでいる。その取り組みが、運営推進会議を通じて地域住民と接触することにより、ボランティアという形式による盛んな地域交流につながっている。開設後3年における地域との交流の度合いは濃密であり、かつ利用者にとっては自然体での交流となっている。他法人が運営する介護施設とも相互に交流しており、今後更に期待が持てる。事業所では、利用者の個別性を重視しており、利用者個人をとらえる着眼点が効果的であり、利用者の安定や職員の定着につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価において、「取り組みを期待したい」項目については、早急に取り組み、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	母体法人は、認知症高齢者対応のグループホームを複数運営しており、外部評価の意義を深くとらえ、統一した意見や判断の下で、積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議を開催することにより、地域とより密接な関わりを持っている。運営推進会議では、広く議題を掲げ、話し合いを行っている。また、近隣で運営している同法人の他事業所と、地域活動を相互に実施する中で、地域主体のボランティア活動の拠点となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族へは、定期的に「たより」を発行し、事業所内での利用者の暮らしの様子を伝えている。また、苦情や事業所に対する意見への対応には、管理者があたり、利用者それぞれの個別性を重視した対応をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	定期的に、地域住民がボランティアとして、事業所での食事の支度や行事への参加、利用者の話し相手や趣味活動の援助などを行っており、利用者とも打ち解けて、自然体で活動を行っている。今後は、ボランティアを組織化するなど、事業所のサポーターとしての役割に期待が持てる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、理念に沿った運営に対する基本方針を明確にしている。運営主体である医療法人の支援を受け、理念達成に向けて積極的に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示、理念カードの携行、カンファレンス時の理念の唱和など、日常の場面で原点回帰ができるように、様々な工夫をしながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民と良好な関係を構築している。町内会組織とは具体的な活動に取り組み、利用者は自然体で交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義についての理解は、法人として重要ととらえており、職員全員で、改善や向上に向けた取り組みを積極的に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的に会議を開催している。委員の出席率も高く、会議の中で広く多義にわたり運営に関わる話し合いを持っている。会議を開催することにより、町内会と連携が強くなり、ボランティア活動などの具体的な取り組みにつながっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、管理者会議や地域ケア会議などで連携をしている。生活保護担当者等とは、随時連絡をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所発行の「たより」を利用し、利用者の日常生活の様子を家族に伝えている。その他金銭台帳なども、定期的に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱は設置せず、日常の面会時や電話などで直接家族と会話をし、意見を引き出して、運営に反映している。苦情対応のマニュアルを整備しており、苦情対応者も明確にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、退職も含めて事例が少ない。新しい職員の採用の際は、利用者が不穏にならないように、馴染みの職員の支援を受けるなど工夫している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人で企画する内部研修や、外部研修への参加の取り組みに積極的であるとともに、研修内容について他の職員に伝達する仕組みを確立している。新人採用時の研修については、実施記録の一部について整備するまでには至っていない。	○	採用時研修のマニュアルと共に、研修の実施記録を残すことにより、より一層職員育成の過程が明確になり、サービスの質の向上に反映することが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所等と連携をとるとともに、地域住民や町内会との接点を持つなど、積極的に取り組んでいる。母体法人の運営する他事業所も近隣にあり、交流の拠点となっており、今後は事業所相互の向上が期待できる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談から利用開始まで、管理者や職員が、利用者と少しでも関わりを持つよう工夫しながら対応している。事業所見学や自宅訪問はもとより、事業所の生活に馴染むまで、家族が事業所に宿泊できるなど、柔軟な対応を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、共に支えあいながら生活している。職員は、利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、生活支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、利用者一人ひとりの思いを尊重し、それぞれの利用者がその人らしく生活できるように、思いや意向の確認を行いながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で、利用者全体のカンファレンスを実施し、意見交換を行っている。職員は、利用者の状態を観察したり把握するための職員間の情報交換に、利用者それぞれの個人ノートを活用し、情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、定期的にカンファレンスを開催し、計画の見直しや評価を実施している。利用者の退院後や状態が著しく変化した場合は、暫定計画を立案するなどの対応をしている。家族や主治医とも意見交換をする体制にあり、意見を反映した計画を策定している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症高齢者対応グループホームの単一事業であるが、近隣に同法人開設のグループホームや介護保険事業所があり、協力体制にある。特にグループホーム間の連携は密接であり、定期的にサービスの質の向上に向けての話し合いを持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の訪問診療を受けるよう支援している。週1度程度、看護師の訪問を受け、往診時や急変時に情報を共有する体制にある。他科受診は、家族と協議し決定している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアに向けた対応は現在は実施せず、利用相談時には、利用者や家族にその趣旨を説明し同意を得ている。また、病状などを家族と共に主治医から聞き、サービス提供の場面に反映している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時に、個人情報の取り扱いに関する同意を得ている。職員は、採用時に守秘義務に関する遵守事項の説明を受けている。利用者に対しては、個人の尊厳に配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の清掃を、職員・利用者が共に協働して実施している。利用者それぞれの誕生会を、誕生日当日に実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	軽い音楽を流すなど、食事の時間の環境整備に工夫している。食事の献立には、利用者の希望を採り入れたり、インターネットを活用しバラエティに富んだメニューを作成して提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴支援を、入浴記録を参考に声かけを行いながら実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事の写真を掲示し、事業所内での生活の振り返りができるように配慮している。また、過去の生活歴などを、家族から情報を得て活用している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の意見を尊重し、散歩や買い物などの支援を実施している。近隣には、公園等の公共的な施設は少ないが、事業所周辺に畑や花壇をつくり、外出に向けた動機づけを行い、外出の目的となるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニット共有の玄関は常に開放的であり、夜間を除き開錠している。玄関周辺には、椅子やプリンターを置き、利用者の社交の場としての役割を果たしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規程に明記している防災訓練を実施している。災害時の対応について、マニュアル化して常備するとともに、近隣住民からの支援体制についても、運営推進会議などを活用し話し合いを行っている。また、緊急時自動通報システムを整備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録しており、利用者の体調変化の気付きに重要な役目を果たしている。献立は、インターネットなどを活用し、情報やアイデアを採り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を工夫して使用している。2階には天窓があり、自然採光に配慮している。リビングから陰になる場所には、小さなくつろぎの空間があり、利用者同士のトラブル回避に活用している。数箇所のバルコニーがあり、利用者は自由に出入りし、気分転換ができるとともに、洗濯物を干すなど日常的に活用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドや仏壇など利用者の馴染みの品々を持ち込んでいる。利用者にとって、安心してくつろげる居室である。		

※  は、重点項目。